

本研究所からの参加者は、篠崎信男（人口資質部長）、小林和正（資料課長）および青木尚雄（人口資質部能力科長）の3技官で、第1日午後の研究発表で、小林（東大 霞田光三と共同報告）は「日高地方におけるアイヌ-和人の混血人口の形成について——北海道浦河姉茶部落の事例において——」、青木は「出生順位別特殊出生率の動向について」報告を行なった。

篠崎信男は第3日のシンポジウムA「生体と生活」において司会をつとめ、「家政経営学における人類学」、「体力と生活」、「夜勤における機能変化」および「人間と機械の接点としての反応時間」の4報告が行なわれた。（小林和正記）

## 第6回日本老年学会総会・第11回日本老年医学会 総会・第11回日本老年社会学会総会

標記3学会総会が昭和44年11月20（木）～22（土）の3日間にわたり、大阪市、大阪厚生年金会館において開催された。

日本老年学会としては会長（国立大阪病院院長 吉田常雄）の演説を始め、日本老年医学会会長（大阪大学精神神経科教授 金子仁郎）の「老年精神医学の現状と将来」について、日本老年社会学会会長（相愛女子大学教授 橘 覚勝）の「Aging の発見」についての講演があり、特別講演として「老年者の社会保障」（ILO東京支局調査部長 高橋 武）、「加齢と疾患」（東京大学教授 吉川政己）の2題と、シンポジウムとして「老年期精神障害の医学的社会的問題」（司会、金子・橘両教授）があり、4報告をめぐって討議が行なわれた。

日本老年医学会総会においては、特別講演「向老期以後における健康診断の判定基準について」（大阪府立成人病センター所長 千田信行）と、シンポジウム「老年者と心血管系」（司会、大阪医科大学教授 原 亨）があり、一般演題は205題を教えた。

日本老年社会学会総会においては、特別講演「老年福祉の意義についての考察」（大阪市立大学教授 岡村重夫）を始め、シンポジウム「老人福祉の展望」（司会、神戸女学院教授 雀部猛利）についての報告と討論があり、特別報告「国際老年学会に出席して」（寿命学研究会会長 渡辺 定、淑徳大学教授 大間知千代）のほか、一般演題として20題の報告があった。一般演題のうち、人口に直接関係のあるものは、本研究所から出席した上田正夫（人口政策部長）、小林和正（資料課長）両技官による次の2題の報告のみであった。

わが国老年人口の分析……………小林和正  
新推計将来人口からみた老年人口の動向……………上田正夫  
（上田正夫記）

## 第15回国際連合人口委員会

1969年11月3日から同14日まで、在ジュネーブ国連ヨーロッパ事務局において、第15回国連人口委員会（Fifteenth Session of the Population Commission）が開催され、館 稔所長がこれに出席した。

現在、人口委員会はブラジル、カメルーン、中央アフリカ共和国、チェコスロバキア、デンマーク、エクアドル、フランス、ガーナ、インド、インドネシア、ジャマイカ、日本、ケニア、ニュージーランド、パキスタン、ペルー、フィリピン、ルワンダ、スペイン、スウェーデン、ウクライナ、ソビエト連邦、アラブ連合、イギリス、アメリカ合衆国、オードボルタ、およびベネズエラの27か国で構成されているが、今回は、